



「地」

域おこし協力隊」とは、都心に集
中している人口を分散させ、地方
の活性化を図る国の取り組みです。

「佐野に初めて来たとき、私の地元似
ていると感じました」と話す砂子間さんは
福岡県出身。

市の観光推進課で、インバウンド担当と
して佐野市を訪れる海外の方を増やす取
組みをしたり、訪れた方々と交流し、地域
の魅力を発信したりしています。

学生時代は海外旅行が趣味で、カンボジ
アで幼稚園を建設するボランティアをした
こともあるそうです。リクルートスーツを
着ての就職活動にすっかりこない中、サー
カス団の求人広告を偶然見かけ、迷いなく
応募し入社。舞台制作などに携わり、日本
各地を公演で回る日々を過ごしました。そ
の後、転職して、留学生のサポートや、学
生の国際交流を手伝う仕事に就きます。

「サーカス団員も外国の人たちが多数。
やっぱり自分の根底には『いろいろな国の
方と触れ合いたい』という思いがありまし

国際交流の架け橋として

た」と話します。
そんな経験を生かせる仕事を探している
時に見つけたのが「インバウンドの推進」
というミッションを掲げる佐野市の地域お
こし協力隊。

「自分のキャリアが役に立つかもしれな
いと、直感が働いたんです」と、地域おこ
し協力隊に参加した砂子間さん。現在取り
組んでいるのは、外国人旅行者のニーズに
応える土台作り。これまで行った活動は、
外国人向けの市内周遊マップの作成や、農
業交流プログラム、インドネシアからの教
育旅行の受け入れなど。

今後は、まだ観光要素として開拓されて
いない魅力を取り上げ、佐野の見どころを
増やしていきたいそうです。

ゲストハウスの運営もしている砂子間さ
んは「宿泊のほかにイベントなども開催し、
旅行者と地元の方とのつながりが生まれる
場を提供していけたら」と語ります。地域
活性化の担い手としての意欲は尽きません。

(市民記者 小林春美)

キラリ話題の人

すなこま ひとみ
砂子間 仁実 さん

佐野市地域おこし協力隊
グローバルゲストハウス運営



市長室からこんにちは！



子どもたちの長かった夏休み
も終わり、またにぎやかな声か
学校に戻ってきました。まだま
だ厳しい残暑が続いていますが、
芸術の秋に向けて、今月は本
市の美術館や博物館についてお話
していきたいと思えます。

市出身の陶芸家で、人間国宝と
して認定を受けた田村耕一先生
の作品を数多く展示する「人間
国宝田村耕一陶芸館」などの市
有施設があります。

また、民間施設では、優しい
絵が特徴で市役所の7階にも飾
らせていただいている「安藤勇
寿「少年の日」美術館」、田村
耕一先生の作品で抹茶を飲むこ
ともできる「人間国宝田村耕一
美術館」、今年リニューアルオ
ープンし、まちなか周遊にも大き
く寄与していただいている「東
石美術館」があります。

どの美術館、博物館も素晴ら
しい作品がたくさんあります。
訪れたことがない施設があれば、
ぜひ、訪問してみてください。きつ
と新しい発見があると思います。

さて、9月1日は防災の日で
す。地震、豪雨、雷、竜巻など、
さまざまな自然災害の可能性が
高まっておりますので、日頃よ
り万が一に備えた準備をお願い
いたします。



佐野市長
金子 裕



① 講演会の様子
② 地球温暖化による影響

できることから始めませんか？
ゼロカーボンシティの実現

今年7月29日(月)、佐野市は国内最高気温41度を記録しました(国内過去最高気温まであと0.1度でした)。

今年も暑い夏になると予想された7月20日(土)、市役所1階の市民活動スペースにおいて、市民団体「JWCさの」主催の勉強会が開催されました。会員でもある市気候変動対策課長の関塚さんが講師を務めました。

地球温暖化による影響が出ていること(集中豪雨・大型台風増加・海面上昇・干ばつ・気温上昇)、地球温暖化が加速していること(森林伐採や二酸化炭素などの温室効果ガスの影響)、「カーボンニュートラル」とは二酸化炭素排出量を二酸化炭素吸収量で中和し「ゼロ」にすることで、排出される二酸化炭素を減らすための取り組みなどのお話に、会員のほか、市内外からのたくさんの参加者が耳を傾けていました。

佐野市では、市民向けに省エネ家電への買い替えや次世代自動車などの車両購入費の支援、企業向けにカーボンニュートラルに向けた事業を支援する資金繰り支援があるそうです。

私たち市民も、蛍光灯をLEDに変えたり、テレビの画面を少し暗くしたり、できることから始め、ゼロカーボンシティ(2050年までに二酸化炭素を実質ゼロにすると公表した地方自治体)の実現に向けての取り組みの輪を広げていきましょう。

(市民記者 中里聖子)



楽しく親睦を深めました！

佐野・芦屋青少年交流

全国的に有名な茶釜の産地として古くから「西の芦屋・東の天明」と言われ、共通の文化を持つことから、佐野市と福岡県芦屋町は平成10年5月に親善都市の締結をしています。

お互いの文化や歴史を学ぶことで、改めて故郷を見つめ直し、学ぶきっかけとなるよう、青少年交流を中心に佐野市と芦屋町で毎年交流事業を行っています。

今年は、芦屋町の小学5年生から中学2年生までの児童生徒12人が8月7日(水)～9日(金)の3日間、佐野市を訪れました。

本市からも児童生徒13人が参加し、デコベーゴマ作りやバーベキュー大会、観光名所見学などで交流を図り、最終日には佐野らーめん作りの体験もしました。



さの秀郷まつり協賛イベント

唐澤山神社ナイトウォーク

8月10日(土)・11日(日)唐沢山において、ナイトウォークイベントが開催されました。

9月に開催される第32回さの秀郷まつりの協賛イベントとして実施され、参加者は提灯を持って夜の参道を散策しました。

夜の唐沢山の空気と参道に設置されている天明鑄物の風鈴の音色が相まって夏の涼しさを演出していました。

また、レトロ縁日や秀郷太鼓、パフォーマンスミュージックユニット「Ciel」による納涼ライブ、佐野ブランド応援団長のテルさんと行く「お化けナイトツアー」なども開催され、多くの来場者でにぎわいを見せていました。